

令和2年9月定例県議会の概要について

概 要

「一般質問」での教育委員会関係の主な質疑応答

中山 功 議員

◇新型コロナウイルス感染症について

(1) 小中高のコロナ感染症防止対策として、オンライン授業と対面式の授業のベストミックスを図る必要性について伺いたい。

(教育長答弁)

オンライン授業の優位性は、教師と児童生徒が異なる場所においても、授業ができるというところにあります。学校休業等が続いた際にも、登校日の対面授業とオンライン授業とを組み合わせることによって、児童生徒の学びをより充実できるものと捉えております。

しかしながら県内では、先の臨時休業中、家庭に持ち帰らせる端末を準備できた学校においてオンライン授業に取り組んだ事例はありますが、ほとんどの学校では、その実施に至っていないという状況であります。

(2) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で県内の雇用環境は悪化している一方、郷土の良さを再認識した生徒、保護者もいるのではないかと。このことを機会と捉え、教育委員会の今後の取組について伺いたい。

(教育長答弁)

議員ご指摘のとおり、今回のコロナ禍において保護者も含めて県内回帰の動きがあることは、私も学校現場を回る中で話を聞いております。

しかしながら現実問題として採用計画への影響も若干出てきていますので、県教育委員会としましては、その影響を見越し、例年以上に面談回数を増やすなど、生徒の不安を払拭するとともに、企業情報を提供しながら県内定着に向けた取組に努めてまいりました。

また、県教育委員会の職員が専門高校を訪問して、県内就職に向けた指導のあり方等について教員等に指導し、担任が生徒面談の中で地元企業の魅力や県内就職のメリットを伝えていきます。

一方、進学者の多い高校においては、進路学習や担任による面談を通して、県内の大学の情報や魅力等について、生徒に伝えております。

いずれにしても、細かい情報を担任を通じて生徒、保護者に伝えることによって、県内定着を図っていきたいと考えております。